

東公民館

地域環境部活動紹介

永田環境部長 曾根芳清



▲説明を聞き、プリントをよく見ながら挑戦！（石けん造り）

永田では公民館活動の一環として2月1日付けで新しく環境部を設置しました。その主な活動内容は、古新聞、古雑誌、ダンボールなどの古紙回収や廃油を利用した石けん造り、EM発酵液使用による水質改善です。古紙類の回収については、年間の予定表を各家庭に配布し、協力をお願いしました。回収日は毎月1回（日曜日）を予定しています。

まず、古紙類の回収についてですが、回収日に各家庭から不要になった紙類を種類別に分類し、所定場所に持ち寄ってもらいます。その際、小学生以下の子どもさんも一緒に手伝っている姿を見るとほほえましい気持ちになりました。はじめた当時は、紙の分類の仕方や紐の結び方などで戸惑うこともありましたが、最近是要領も分かりスムーズに流れるようになりました。5か月も過ぎたころにはたくさん古新聞、古雑誌、ダンボールなどが集まり、業者に引き取りをお願いしたところ、何と約7トンもあったのです。この日、字の役員と老人部、婦人部、中学生の皆さんが2列になってリレーで大型車に積み込みました。今は永田の行事として、徐々に定着してきています。

次に、石けん造りについてですが、各家庭から集まった廃油もかなりの量になりました。そこで先日、老人部、婦人部、小・中学生の皆さんなど約20人の方が、石けん造りの体験学習をしました。



▲みんなで仲良く石けん造りに取り組みます

区長さんの説明やプリントを見ながら和気あいあいと楽しく学習することができました。混ぜ合わせてできた材料は、いろいろな形状のパックに入れて乾かすことにしました。さて、どんな石けんがどのようにしてでき上がるのか、みんな楽しみに待っていると、2週間後、それぞれ色も形も異なる個性豊かな約20個の石けんができました。

以上のような資源の再利用活動をとおして、地域の方々のコミュニケーションの深まりが、顕著に現れていることをよるこばしく思っています。今後はこの活動の輪を広げ、みんなで地域の活動として定着させ、進めていくことができればと願っています。

補導センターだより

Kデーまであと…

岡田中学校 三好裕士

半年ほど前、帰宅途中にタバコ屋へ寄った。制服を着て自転車に乗った高校生らしい少年が、じっとタバコの自販機をながめている。私はその前を横切り、硬貨を投入しながら、「高校生か？ タバコ吸うたらいかんぞ！ おいさんなんか、今すごいやめたいけどやめれんのぞ。」とたしなめた。少年は「僕、タバコは吸いません。ちょっと見よっただけで」と言い残して、すぐに立ち去った。何か声をかけなければという使命感の裏側で、得体の知れない後ろめたさから出たその言葉に、後になって恥ずかしさを覚えた。

7月からのたばこ税増税を機会に、禁煙を試みた喫煙家も多いと聞く。実は私もその一人で、10年来の愛煙家だった。禁煙を機会にタバコの罫について考えてみた。私は不思議なことに今まで一度もタバコの味を「おいしい」と感じたことがない。もし、タバコの味が素晴らしければ、一服吸っただけで心の警報ベルが鳴り、「ああ、だから大人たちは大金を払って自分の体を

破壊してまでタバコを吸うのだな。」と思うだろう。しかし実際には初めてのタバコがひどくまずいものだから、「こんなまずいものはいつでもやめられる。」と、タバコの有害性を理解しながらも油断してしまふ。そしていざタバコをやめるとなると、ニコチンの恐るべき禁断症状によって2、3日は拷問のような苦しみ味わうことになる。

薬物乱用防止教室アンケータ（平成10年）によれば、本県の喫煙経験者は中学一年で男子8・7%、女子3・9%、高校三年で男子28・6%、女子9・4%となっている。

また、県教育委員会は来年少5月31日の世界禁煙デー以降、県立学校施設内を完全禁煙にする方針を決め、市町村立小・中学校にも同様に完全実施を求めている。特に教育関係者は未成年者の将来の行動に大きな影響力を持つため、少なくとも児童・生徒の目の届く範囲では禁煙することが期待されているわけである。

皆さんはこの動きについてどう考えられるでしょうか。